

瑞 議 発 第 2 6 4 号

平成 2 9 年 3 月 2 3 日

瑞穂町長 石塚幸右衛門 様

瑞穂町議会議長 高水 永雄

厚生文教委員会委員長

下野 義子

瑞穂町議会厚生文教委員会からの提言

日頃、議会の活動及び運営に対し、ご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、厚生文教委員会では、昨年 1 1 月に「まちなか会議」を開催しました。本年度のテーマは、昨年度に引き続き「子育て支援」とした上で、「子育てナビ『ワクワクみずほ』」と「児童館・移動児童館事業」について、住民の方々とグループ討議を行いました。その後、まちなか会議で頂いた意見等を踏まえ、委員会にて協議を重ねて参りました。

つきましては、厚生文教委員会として、別紙のとおり提言します。

なお、まちなか会議の概要報告を添付します。

提 言 書

子育て支援事業の一環の移動児童館は、「あすなろ児童館」の補完的な事業として始められ、平成28年度においては更に拡充し、一定の成果をあげられていると評価しており、担当部署の努力には敬意を表します。

しかしながら、より良い子育て環境を望む声は多く、まちなか会議においても、児童館を念頭とした子どもの居場所を求める声が多くありました。

当委員会では、これらの意見を踏まえ協議を重ねた結果、以下のとおり提言します。

一、移動児童館事業の更なる拡充

武蔵野コミュニティセンターでの移動児童館事業の開催日数を、夏休み期間中に限らず、あすなろ児童館と同程度に拡充するよう努められたい。

また、長岡・元狭山コミュニティセンターにおいても同様な事業展開の必要性を調査・検討されたい。

一、子どもの居場所づくり

子育て支援の一環として、子どもたちが安全で安心できる場所の確保及び充実を図るため、放課後子ども教室、児童館事業や学童保育クラブ事業など、多くの施策の連携とより一層の強化を図られたい。

また、事業の調査・検討を行う上では、学校など公共施設の効率的な活用のほか、空き家の利用など、様々な視点で取り組まれたい。

一、子育て支援策を推進するため、一日も早い町組織も含めた、子育てに関する施策の一元化を図られたい。

「みずほまちなか会議」の概要

日時：平成28年11月25日（17名）

場所：町民会館会議室

参加者：17名

まちなか会議において出された意見等

①子育てナビ「ワクワクみずほ」について

- ・周知が足りない。まだまだ知らない保護者が多い。
- ・予防接種の受け忘れがなくなり、大変便利だと感じる。
- ・有効な情報が得られる。更に町情報とリンクできればいいのでは。
- ・「ひばり」や児童館、保育園や幼稚園などのお知らせも配信できれば色々な所にアクセスしなくて済む。
- ・色々な情報が入りすぎて煩わしい。
- ・リスクの高い若年の方や精神的にフォローが必要な方への配慮があると良い。
- ・セキュリティが心配。
- ・スマートフォンを持っていない人も利用できるのか。
- ・健診情報や健診のアンケートもできると良い。
- ・子どもがいくつになる位まで利用できるのか。 等

②児童館・移動児童館について

- ・児童館は複合施設のため、規制が多い。
- ・児童館への道の安全確保をして欲しい。
- ・子ども同士のトラブルが起きたときの対処の仕方が気になり。
- ・異世代交流ができる。
- ・児童館は事業内容が魅力的。
- ・児童館までの距離がある方は利用できない。
- ・武蔵野地区にも児童館がほしい。
- ・子どもたちが安全で安心できる居場所が必要。
- ・地域ごとに児童館がほしい。財政面で厳しいなら空き家などを活用しては。
- ・地域の人たちの意見や地域の手を借りることも必要。 等